



**【研究仮説】**

算数科を通して、基本的な学び方を定着させ、児童の実態を把握した上で既習の基礎的・基本的な知識・技能をもとに、全体交流時でつまずきをきっかけに児童の考えたことを仲間に伝えたり振り返ったりする活動や、補充的な問題を充実させた指導を継続して行えば、主体的に学ぶ学習集団の育成につながる。

研究内容 1 単位時間の学習内容の定着につながる授業の工夫	研究内容 2 主体的に学ぶ学習集団づくりの工夫
<p><b>具体的な方途</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本時において児童にどのような力をつけさせるか意識した課題とまとめを明確化</li> <li>② <u>疑問やつまずきをきっかけに、自分の考えを練り直したり深めたりできる交流の在り方</u></li> <li>③ 授業内容の習熟や発展問題及び生活に活用する補充問題の充実</li> </ol>	<p><b>具体的な方途</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 机間指導で、児童のつまずきを把握するための机列表の効果的な使用工夫</li> <li>② 交流の場面で、つまずきをきっかけに考えたことを仲間に伝えたり、問題解決のための「キーワード」を用いて自分の言葉で話したりできる指導</li> <li>③ ペアや全体交流後に、仲間の意見をノートに書き加える指導</li> <li>④ <u>自主的・継続的に取り組み、補充・定着・発展的な学習を身につける家庭学習の在り方</u></li> </ol>